

■今月の特選句

2014年10月号

案山子翁秋田小町に一目惚れ

永島董玉

季語は案山子だが、米の銘柄も季語。そこが可笑しい。八木健の句に「秋田小町腰光らせて稲を刈る」がある。艶っぽい句のお友達ですね。

泳ぐこと想定外の水着かな

金澤 健

最近の若い娘の水着は、見せるのが目的だからね。甲羅干だけを考えて水溶性の不織布使用の水着だったら可笑しいね。あれれ溶けちゃった。

草の市みな持ちづらきものばかり

麻生やよひ

嵩張るものに菰や燈籠供花の花。逃げたがるのが茄子の牛とか。胡瓜の馬など土器を落して割ったりもした。子どもの頃の思い出ですか。

あの月はみんなのものと子を諭し

大澤酒仙奴

「名月をとつてくれろと泣く子かな」の本句取りですね。名月を取ったら国際問題になるから駄目と子を諭す。早いもの勝ちだと子の反論。

なんとかいう米どころなり蒲の花

山本 賜

肝心の地名失念して名句誕生するもいと楽し。その一つまり、あのなんとかと、代名詞使ひ通じること夫婦の語らひもまた楽しかりけり。

燕去り村に無傷の空戻る

宮森 輝

村の空斜め切りせしつばくらめ。発つ鳥傷を残さずですね。その空のあつけらんもちと寂し。来春には、燕来て賑ひ戻る村の空。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

日向ぼこしてる老母の地獄耳
・・・盗み聞きすることが天国

高橋素子

窓叩く死ぬぞ死ぬぞと秋の蝉
・・・死ぬなど言っても聞く耳持たず

久我正明

ニュートンもたまげる釣瓶落しかな
・・・あのリンゴより釣瓶が渋い

有富洋二

台風に毎度どうもと言いがたし
・・・今年は十分間に合ってます

細川岩男

持参してあらかた呑んでゆく新酒
・・・高級珍味あらかた食って

小林英昭

姫君の裾に手を入れ菊師かな
・・・セクハラに堪え金賞を受く

飯塚ひろし

威し銃村に人相書貼られ
・・・見てゐる吾の背後でズドン

越前春生

国産と聞けば松茸匂ひ濃し
・・・ナデシコジャパンマツタケジャパン

下嶋四万歩

飛蚊症実物の蚊も仲間入り
・・・にぎや蚊なれど鬱とうしい蚊

井野ひろみ

苦勞して痩せたと言えぬ夏痩せよ
・・・ダイエットだと褒められたのか

井口夏子

風鈴のこれみよがしに鳴り止まず
・・・引退の日を予感するかに

白井道義

敬老日飲むなら飲めと胃腸薬
・・・乗るなら飲むなはアルコール

菅野あたる

ポプコーントウモロコシのガレキかな
・・・童心の句か老眼の句か

栗倉健二

■今月の滑稽句

| | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 古妻に倍返しされうそ寒し 難聴の会話ちぐはぐ敬老日 天高し肥えゆく豚の不幸せ | 青木輝子 青木輝子 青木輝子 |
| 【佳作】 | 清らかなオクラの花の実には棘 こんなにも山河痛めし台風め 育爺(じい)の笑みと汗とにまみれたる | 秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 貢物掲げるさまに蟻の列 盆提灯揺らぎなにやら胸騒ぎ | 麻生やよひ 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 友よりの用無し電話芋食らふ 体育の日サプリメントで腹いっぱい | 有富洋二 有富洋二 |
| 【佳作】 | 秋茄子を嫁に喰はして知らぬ顔 敬老日しぶしぶ老人らしくなり 八つ当たりしながらかぶりつく西瓜 | 有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二 |
| 【佳作】 | 雲隠れ藪蚊怖いか園の月 マドンナもくしゃみ三回秋の風 | 栗倉健二 栗倉健二 |
| 【佳作】 | どぶろくを回し飲みする婦人会 刀鍛冶目利き頼まれ秋刀魚選る | 飯塚ひろし 飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 炙られてヒップホップのアワビかな 台風来我が妄想は限りなく | 井口夏子 井口夏子 |
| 【佳作】 | 空蝉や色即是空無声の声 敗戦忌廢墟も山河も美しかり | 池田亮二 池田亮二 |
| 【佳作】 | 残る蚊の余命に散布容赦なし 灯火親し正式名称消し忘れ | 石川セツコ 石川セツコ |
| 【佳作】 | 柿五つ喰へば五つの蒂残る 筋書きに寺と柿屋の鐘が鳴る 爽やかや性別外した混浴場 | 伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛 |
| 【佳作】 | 夕立に庭木も我も梅雨を偲びて 梅雨明けにそこひ去りしも歪視知る 親からのネジ巻き時計カナカナと | 伊藤慈秀 伊藤慈秀 伊藤慈秀 |
| | バイキングの昼食のあと葡萄狩 | 伊藤浩睦 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | この年まで台風一家と覚え来て 温排水電気くらげの発電所 | 伊藤浩睦 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 片蔭や駐車違反とは知らず 空蟬の空(そら)を目指して空(から)となる 冷奴どうでもいいけど冷奴 | 稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一 |
| 【佳作】 | 夏痩せや人事らし体重計 法師蟬ここで死ぬなよ車庫の中 | 井野ひろみ 井野ひろみ |
| 【佳作】 | 見上げればスカイツリーも葱坊主 人生の歩みに似たる蟻の道 縁先のねずみ花火の猫を追い | 入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉 |
| 【佳作】 | 吸物椀に浮かぶ三日月柚子の皮 ありえない無花果噛んだらあり噛んだ 満員の終電に乗るほろ酔い蚊 | 上山美穂 上山美穂 上山美穂 |
| 【佳作】 | ルビーの歯見せて爆裂石榴の実 枝先に泳ぐ姿や鴟の糞 床を掃く床屋の女房居待月 | 氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一 |
| 【佳作】 | 菖の庵水琴窟に耳凝らす アートの心青柿に紅さして 彼岸花の火山のごとし父母の墓 | 梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子 |
| 【佳作】 | 泡となる秋の金魚の独り言 仏壇でさく熟れてゐるメロンかな | 越前春生 越前春生 |
| 【佳作】 | 越中の真一文字や青嵐 | 大澤酒仙奴 |
| 【佳作】 | 水澄むと言へど気になる蚊の動き 秋出水次ほどの地を選ぶやら コスモスの中州に残る勁さかな | 奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 老残の血を別れ蚊に呉れてやる もろきゆうに酌めば出てくる河太郎 焼鳥の雀一丁秋暑し | 笠 政人 笠 政人 笠 政人 |
| 【佳作】 | 十五夜と知らずお月見団子食ふ 高騰の胡瓜一切れいただきぬ 歓声をあぐ満月と錦織と | 加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子 |
| | 臨月の子がもてなしの西瓜切る | 加藤 賢 |

| | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 糖尿の吾が血を吸うて蚊の飛べず 一室の蚊の老人を刺さざりき | 加藤 賢 加藤 賢 |
| 【佳作】 | 赤蜻蛉二手に別れ青い空 台風や女心も右往左往 怖いのは地震台風豪雨かな | 門屋 定 門屋 定 門屋 定 |
| 【佳作】 | サボテンのニコリともせず喜雨の中 眼球の裏に汗かく溽暑かな | 金澤 健 金澤 健 |
| 【佳作】 | あおむけに落つ蟬熱中症かもね 風鈴もクーラーの風受けて鳴り 紅白の夾竹桃咲く原爆忌 | 川島智子 川島智子 川島智子 |
| 【佳作】 | 結局は折れて円満きざりす 燈下親し戦争知らぬ高齢者 | 菅野あたる 菅野あたる |
| 【佳作】 | 放屁虫の嫌がる屁を放ちけり 赤ちゃんのお尻がいっぱい桃熟れる | 久我正明 久我正明 |
| 【佳作】 | 門標に「空家」とありて虫の宿 大人の遊びいっぱい学び夏果つる | 黒田忠一 黒田忠一 |
| 【佳作】 | でで虫の老若雌雄分かり兼ね 校庭の夜のプールのひそひそと 捕虫網捕まえられてあきらめて | 小泉花子 小泉花子 小泉花子 |
| 【佳作】 | とろろ汁かたいはなしはあとまはし 出もどつてきたんですのよこの残暑 | 小林英昭 小林英昭 |
| 【佳作】 | つばくらめ歩き携帯威嚇せり 立てばスマホ座ればスマホ牡丹かな 携帯のあまた姦し蟬しぐれ | 酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 秋虫を追うように夏虫去るよ 赤とんぼ指先止まるめおとかな イナゴ取りあすは佃煮あきらめて | 佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子 |
| 【佳作】 | どの声が本音の声や秋の声 悩むほど先長からず秋没日 | 下嶋四万歩 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 炎天の降臨中や館林 小指の名さへも度忘れ猛暑かな 豊乳の中身は何と知る水着 | 壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次 |

| | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 五分五分の運に賭けたる西瓜買ふ 枝豆や三日で破る腹八分 | 白井道義 白井道義 |
| 【佳作】 | バラの花束古希のことちゃんと知っていた 古希はスタートだ 今夜南瓜煮 古希は花束持ってやってくる ずうずうしく | 鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 世話なしの缶詰選ぶ夏祭 風薫る近くコンビニ朝ごはん 努力の日コーラー一本扇風機 | 鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 誰も皆十日の菊よ犬が好き 補聴器を付けてラジオや菊日和 敬老日元気付けたり博打汁 | 高田敏男 高田敏男 高田敏男 |
| 【佳作】 | 蝸やその日暮らしの我であり とにかくに桃尻はむつちりがよろし あの方のてんぐ熱つづき秋に入る | 高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ |
| 【佳作】 | 秋の蚊の虐殺招きデング熱 名月と二人っきりの帰り道 カロリーの数値で選ぶ夜食かな | 高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ |
| 【佳作】 | いつの間に耳に住みつき油蟬 マスクして筆を持つ手に喋らせる | 高橋素子 高橋素子 |
| 【佳作】 | 狐花化かすつもりはないけれど 彼岸花赤い光に山を染め かまきりの鎌よけられぬ猫の顔 | 田中章子 田中章子 田中章子 |
| 【佳作】 | 懐かしの唄を聴くなるけさの秋 朝顔や誕生日祝ってくれる 八月や生と死を考へさせる | 田中 勇 田中 勇 田中 勇 |
| 【佳作】 | 海馬より消えゆく活字日雷 百までも生きるつもりのむかご飯 万緑や一気に家を呑みしこと | 田中早苗 田中早苗 田中早苗 |
| 【佳作】 | 夏瘦の脛もう齧るところなし 夏休み焦がして返す孫娘 蟻の列いやいや歩く奴もゐる | 田村米生 田村米生 田村米生 |
| | 道端に落ちし青柿そっと蹴り | 津田このみ |

| | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 空いてると喜び座れば弱冷車 夏休み終わり母さん一休み | 津田このみ 津田このみ |
| 【佳作】 | ワルツ舞ふとんぼ軍団ブリティッシュ 溜め息の絞り出す声秋の蟬 身を縮め乗る体重計秋の風呂 | 土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山 |
| 【佳作】 | 盆休み段々恋しくなる都会 土一升金一升の墓洗う 七十が八十祝う敬老日 | 都吐夢 都吐夢 都吐夢 |
| 【佳作】 | はらからは一病長寿敬老日 平和今老化老衰敗戦忌 変身し殿(しんがり)に付く阿波踊 | 飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 天空にハートを描く稲雀 尼寺は美男葛にかこまれて | 永島董玉 永島董玉 |
| 【佳作】 | 怠けたきときもあらんにぼつたんこ 天高く私も少し肥えました 点眼のついでに泣くや秋の風 | 新島里子 新島里子 新島里子 |
| 【佳作】 | 清潔ななっぱ服着て震災忌 つと妻の二百二十日の荒れ模様 敬老の日の少子化の査証かな | 西をさむ 西をさむ 西をさむ |
| 【佳作】 | 人に牙なきこと確かめ終戦忌 つくづくに軍配上り秋近し 昔ならビール納めの秋に入る | 花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹 |
| 【佳作】 | 泣角力泣いてちちはは喜ばず 帰省してただごろごろとみるばかり 禿頭に太陽近し油照 | 原田 曄 原田 曄 原田 曄 |
| 【佳作】 | 樹も鳥も等間隔に棕並ぶ 瓜坊をペットの宿の牡丹鍋 百日紅真実白く咲き継がり | ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛 |
| 【佳作】 | 褒められて真つ赤な紅葉となりにけり また一つ集団自決の蟬の骸 一片の言葉呑み込む搔き氷 | 久松久子 久松久子 久松久子 |
| | 秋の燈にLEDと蠟燭と 長き夜の俳論たうたう口論に | 日根野聖子 日根野聖子 |

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 【佳作】 | 読みかけを居眠りに伏せ夜長かな | 日根野聖子 |
| | 独酌の杉下右京冷奴 | 藤森荘吉 |
| | 蛍舞ふ井上陽水の歌詞で | 藤森荘吉 |
| 【佳作】 | ソーダ水しゅわあしゅわあと喉しめす | 藤森荘吉 |
| | 亡き祖母の背なのまるまる花木槿 | 藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 所在無し主のおらぬ籐椅子は | 藤原セツ子 |
| | 姫様の寝返り百回熱帯夜 | 藤原セツ子 |
| | 情けなや雷怖し年甲斐も | 細川岩男 |
| 【佳作】 | 責任を取ってくれよと台風に | 細川岩男 |
| | 幼年の真昼の沼に浮いてこい | 松井まさし |
| | 話長き住職配る秋うちは | 松井まさし |
| 【佳作】 | ペディキュアの脚の放漫芋名月 | 松井まさし |
| | 夏風邪を頭巾でひやすお化けかな | 松尾軍治 |
| | 秋風に人みて嗤ふ鴉かな | 松尾軍治 |
| 【佳作】 | てふてふにてにをはならふ山頭火 | 松尾軍治 |
| | 男泣き絵になる夏の甲子園 | 丸山絃一 |
| 【佳作】 | 緑陰の団欒断てりオスプレイ | 丸山絃一 |
| | 秋立つ日日輪滾る劫火ごと | 丸山絃一 |
| | 孫の尻拭く腕あげた夏休み | 三橋百笑 |
| | 熊蟬のしゃんしゃん鳴くも静の中(うち) | 三橋百笑 |
| 【佳作】 | アンパンマンの仲間覚えし祖父(じじ)の夏 | 三橋百笑 |
| | 立秋の水もみくちやに手を洗ふ | 宮森 輝 |
| 【佳作】 | 虫時雨両耳に胼胝できるほど | 宮森 輝 |
| | 露草や揺れる流れる転がれる | 百千草 |
| | 真夜中の大の字コの字秋暑し | 百千草 |
| 【佳作】 | 教訓は常生かされずいわし雲 | 百千草 |
| | 朝顔の好きにさせてよ左巻き | 森岡香代子 |
| | 水面下もがく手足の立ち泳ぎ | 森岡香代子 |
| 【佳作】 | 夏休み終えしプールの高齢化 | 森岡香代子 |
| | 嫁は言う煮ても焼いても美味しい茄子 | 森 要 |
| | 食欲は旺盛なれど色は褪せ | 森 要 |
| 【佳作】 | 死ぬ事を忘れてしまう月夜かな | 森 要 |

| | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 叢雲のなき名月の孤独かな じゆわと言ふ音無花果のふたつ割り ひらがなが佳し風揺れのすすきの句 | 八木 健 八木 健 八木 健 |
| 【佳作】 | へそ曲り道理で曲り小鳥狩り 秋茄子喰はす姑そは如何に 阿波踊をどらぬ阿呆の愚痴ばかり | 八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 大汗を流せし選挙水物に 家蠅の倦怠の仲取り持ちぬ 自転して公転の輪の盆踊 | 柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生 |
| 【佳作】 | 猫散歩行く道々のネコジャラシ 身の丈に合った暮しや花イカリ しまったな南瓜の茎は美味かった | 柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子 |
| 【佳作】 | 法師蟬時移ろふを説法す 蚊にさへも嫌われたかと思ふ歳 じつとひとりの反省日和夜の秋 | 山下正純 山下正純 山下正純 |
| 【佳作】 | 秋の蟬飛び立つジェット噴射かな 書道展の書も絵のごとし蟬時雨 苦瓜の苦さに疲れ癒さる | 山本けい子 山本けい子 山本けい子 |
| 【佳作】 | 炎天を来て先づ剥がされし腕時計 葉桜や動物園に鳥さわぐ | 山本 賜 山本 賜 |
| 【佳作】 | 泣き落し舌禍となりぬ夏芝居 後釜の右往左往や秋の陣 長生きも引け目となりて敬老日 | 横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎 |
| 【佳作】 | Deng熱のさばる秋となりにけり カットして妻艶めくや花芙蓉 コスモスの迷路や童見えかくれ | 渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを |